

第 2 2 回 関西詩人協会 (2015年度) 総会ご案内 『言葉の花火 VI』出版記念会

日時 2015年11月15日 (日) 13時30分より (受付 13 時)

会場 大阪リバーサイドホテル (環状線 桜の宮駅 徒歩 3 分)

〒534-0027 大阪市都島区中野町 5-12-3 ☎ 06-6928-3251

総会 = 5 F 懇親会、今年度詩誌・詩書を祝う会 = 3 F 桐・桂 17 時 ~ 19 時

参加費 会員 無料 一般 500 円 懇親会費 6000 円

総会

第 1 部 第 2 2 回 (2015 年度) 総会

司会進行 榊次郎委員

物故者への黙禱

参加者全員

1、開会挨拶

大倉元委員

2、代表挨拶

有馬敏代表

3、議長選出 (司会進行一任)

4、議事

①運営事業報告

佐古祐二委員

②会報発行報告

永井ますみ委員

③会計決算報告

岩井洋委員

④会計監査報告

瀬野とし監査委員

⑤インターネット・ホームページ報告

松村信人委員

⑥次年度事業計画

名古きよえ委員

⑦次年度予算案

岩井洋委員

⑧質疑応答

⑨議案採決

5、議長退任

6、新入会員紹介

佐相憲一・奥村和子・嵯峨京子各委員

7、閉会挨拶

原圭治委員

第 2 部

司会進行 田村照視委員・吉田定一委員

1、講演 関西詩界の戦後を振り返る

「小野十三郎・『山河』・『BLACKPAN』・大阪文学学校」

講師 倉橋 健一氏

1934 年京都市生まれ。日本現代詩人会員。1955 年「山河」同人。以後大阪文学学校に関わるなど大阪に留まって表現活動が続ける。1972 年「白鯨」同人。現在は「イリプス」同人。

近著に詩集『化身』『唐辛子になった赤ん坊』評論集に「倉橋健一選集 6 卷」朝日新聞に「倉橋健一の詩集を読む」産経新聞に「倉橋健一の文学教室」などコラム他を執筆中。



2、関西詩人協会『言葉の花火 VI』出版記念会 進行 すみくらまりこ委員

①翻訳者トーク

ノーマン・アンガス氏 藤井雅人氏、村田辰夫委員 薬師川虹一委員

②詩の朗読『言葉の花火 VI』より

翻訳者推薦作品 数名

(休憩 懇親会準備 会場へ移動 10 分)

懇親会

司会進行 佐相憲一委員・近藤摩耶委員

開会の言葉

村田辰夫委員

会員の今年度刊行詩集・詩書並びに著者の紹介

釣部与志委員・中尾彰秀委員

乾杯

当日参加者にお願い

閉会の言葉

外村文象委員

関西詩人協会会報

第 79 号

2015.10.1

発行者 有馬敏

①総会案内
②詩画展報告／詩話会報告／「詩のひろば」について／子引き孫引き
③新入会員の詩(おしだとしこ・中村純・望月逸子)
④新入会員の詩(秋野かよ子・みちる・登り山泰至・木村勝美)
⑤新入会員の紹介(伊藤真司・岡田直樹・かしはらさとる・柏原充侍・木立零・平野鈴子・油谷京子・おうえさちこ)／退会者／運営委員会の模様／HPより
⑥会員の活動／会員の最新刊書／会員の発行・編集の詩誌／団体の会報・図書

年を追うごとに充実する詩画展

関西詩人協会の第24回詩画展は6月5日から17日まで、大阪市立中央図書館一階エントランスギャラリーで開催された。
今年の出品者は32名で昨年の34名とほぼ変わりはない。数名の初参加もあり新鮮味が加わった。

6月9日の大阪日日新聞に「十人十色の作品並ぶ」と紹介された。詩画展のことが紹介されたのは初めてのことであり、特筆すべきことであった。6月14日には隣接する市立西区民センターで第6回詩話会が開催された。講師は瀬野としさんで、多くの人が集った。詩話会の前後に多くの人が詩画展の会場に足を運んでくれたことは、この企画が成功したと言える。

会場に置いたノートには多くの人の書き込みがあったが、おおむね好評であった。作品の文字が小さいということ、これまでも言われてきたことだが、短詩にするとか詩の一部にするとか考えて欲しいと思う。「見ていただく、読んでいただく」という気持ちが大切なのではないだろうか。

〔今回の出品者32名〕

秋野光子、市原礼子、井上良子、大倉元、奥村和子、尾崎まこと、梶谷忠大、和比古、加納由将、香山雅代、神田さよ、岸本嘉名男、近藤摩耶、齊藤明典、榊次郎、左子真由美、佐藤勝太、清水一郎、田島廣子、司茜、外村文象、永井ますみ、中尾彰秀、名古きよえ、苗村



和正、根来真知子、原圭治、松原さおり、三島佑一、村野由樹、森ちふく、吉田定一。
来年の詩画展に向けて、力作を準備していただきたい。(外村文象)

第六回詩話会

「詩の生まれる場と詩の遠近法」

―講師 瀬野とし―

第六回詩話会が2015年6月14日(日)13時半から大阪市立西区民センターで開かれた。



第一部の瀬野さんの講演は、日常・経験を書く：から始まり、自作の生まれた背景、詩への思いがわかりやすく整理された良いお話でした。まとめと成る、平和を願って：では、自身の中国東北部からの引揚げ、娘の出産と命をつないできた経験から、戦争のない平和な世界をという願いが多くの参加者に強く伝わってきました。

第二部は、自作詩を中心とした朗読の後、朗読グループ「うろこ雲」が、谷川俊太郎の「詩人の墓」を朗読、充実した会となりました。今回は、詩画展期間中の開催で、多くの方が、前後の時間に隣の図書館で詩画展作品の鑑賞もして有意義な時間を過ごしました。

なお、第二部出演者は田中、秋野、岩井、おうえ、奥村、神田、香山、田島、中尾、村田と朗読グループ「うろこ雲」(司茜、市原、横田、近藤、永井)です。
〔出席者56名〕(会員) 合田照子、青木春菜、阿形蓉子、秋野光子、市原礼子、岩井洋、おうえさちこ、大倉元、奥村和子、おれんじゆう、亀井真知子、香山雅代、神田さよ、岸本嘉名男、清沢桂太郎、熊井三郎、近藤摩耶、嵯峨京子、左子真由美、佐古祐二、清水一郎、下田喜久美、白井ひかる、須賀千鶴子、すみくらまりこ、瀬野とし、園田恵美子、田島廣子、司茜、司由衣、辻下和美、釣部与志、外村文象、永井ますみ、中尾彰秀、中西衛、名古きよえ、西喜久子、根来真知子、信定和

美、ハラキン、松原さおり、松村信人、三浦千賀子、三島佑一、南久子、村田辰夫、村野由樹、山下俊子、やまもとれいこ、横田英子、力津耀子
(会員外) 井口幻太郎工藤恵美子、田中潤子、山川茂



朗読者：右上 田中く村田 下がグループうろこ雲

詩のひろば

皆様の作品のひろば「詩のひろば」の創刊号をお届けいたします。ご参加ありがとうございました。
「詩のひろば」は会員の方ならどなたでも、ご利用できます。2号は、締切平成28年2月1日、発行4月1日です。1行21字まで、32行以内、各号1人1編まで、掲載無料。
作品が多数の場合は次号になる場合があります。ご承諾下さい。(創刊号に掲載できなかった作品は2号に回りました。お詫び致します)

送り先 〒639-11056

大和郡山市泉原町9-1
関西詩人協会事務局 大倉元宛

子引き索引

(編集部)

「通る」と「通じる」
通るは真っ直ぐに向こうまで抜けていくこと。
通じるは狭い細い道を、ようやく相手や目的地に行きつくこと。

大野晋『日本語練習帳』より

時代遅れの女 おしだとしこ

時代は変わると うそぶきながら
そのときどきの 気まぐれな流れに
うっかり 乗ってしまったら
どこへ流されるか知れやしない
流行というコトバになじめないものは
アナクロと揶揄される

時がどんなに速く流れようとも
時代がどんなに変わろうとも
おのれは おのれで変わりようがない

日本国憲法が公布されたとき

男女同権 これからは女子も努力しだいで
男子と同様に活躍できる時代になったと

目をかがやかせて語った
先生の言葉に背を押されて
重たい人生の扉を大きく開こうと
あくせくしていたころがあった

〇Lになってビルの窓から
下界をながめたいと
夢見た時代おくれの女は
身の丈ほどの居場所
身の丈ほどの暮らしが心地良くなって
身の丈ほどに生きている

子たちの帰る時間にあわせてオヤツを作り
知恵をしぼって貧しい食卓をかざる

時代がどんなに変わろうとも
わたくしは 変わりようはないのだと
長い道中の茶店の椅子にかけて
番茶を啜りながら黄昏色に染められている

花の狼煙、あげよ 中村純

コンクリートの下の死者を聴き
草の露を思え
幻の花に悲願を
花の狼煙あげよ

人びとの心の中に
傷みの果てに咲き出づるは花
そは幻か 詩か
見えぬ死者の咲かせる花の上に
置ける露の儂き夢

花の狼煙あげよ
死者と連帯せよ

東日本大震災原発事故以降、尊厳の奪われ
れた果てに、手がかりとした詩人たちの複
数のことばから、抱いたオマージュとの対
話で産まれた、詩。
尊厳が奪われた果てに紡ぎだされる花が
詩なら、その花から狼煙をあげ、死者たち
と連帯したいと願う。聴こえる者たちがあ
るのなら、花の狼煙あげよ。死者たちの声
が聴こえなくなったとき、私たちは過つた
だから。

原民喜さん、石牟礼道子さん、小森香子
さん、石川逸子さん、河津聖恵さん、鴨長
明。災害や戦乱、原爆・水俣病・東京大空
襲・在韓被爆者を詩に書き、手記や聞き書
きを編集し、聴いてこられた方たち。この
国は棄民の歴史だった。詩人たちの重ねて
きた仕事は、死者や踏みしだかれた人たち
の声を聴き、書くこと。それを継承する力
量があれば。時代に、今また死者たちが、
ざわめいている。

八月の草 望月逸子

パッハ ゴールドベルグ変奏曲 「アリア」にのせて

「我が党のアジエンダを読みましたか？
答えは全てそこに書いてあります」
国会議員第一秘書は
野太い声で「アジエンダ」を連呼した

ああ そんなことを言っている間も
福島では放射線量の高い小学校で
あの事故がまるでなかったかのように
水泳の授業が行われている

民草

草の根

根なし草

民衆を草に例えるとき
若干の侮蔑と
そして少し怖れも混じっていないか？
意志をもつ市民が
八月の草のように
広場を埋め尽くすことへの怖れが

クズ

ヤブガラシ

ヒメジオン

巻きつく草を探して 葛の蔓は伸びる
大きな葉は幾重にもうち重なりながら
八月の昼下がりの熱を内にこもらせている

猛暑の便り 秋野かよ子

(1)

真夏の夕暮れを歩くと
咲き乱れたオシロイバナに出会った
香りのは体の奥から
螺旋階段を出してくる

時の階段を降りていくと
少女たちは 花摘みをしていた

牛が歩いていた道

メダカがいた溝

蟹が横になって隠れていく

老婆が寝ていた 藁寝台

愛するものの影法師

オシロイバナの黒い種を歯で割る
種のなかには白い粉
おしろいを水溶きすると
オルゴールが鳴る

目がくらむ

真夏に湧きでる黄泉の使いたち

黄色いチョウが舞う

(2)

キイロスズメ蜂 アリ ゴキブリ

蜘蛛・・

その機能 基質 外交 生活 家族

個体

完璧な生の姿に思えて

退治をする前で ひと呼吸おく

人であることの ややしさと

人間の住み分けの仕方を 教わりた
い

ある日の「10秒の詩」 みちる

「10秒の詩」は10秒で読める短い詩

* 私が好きなひとはあなた
あなただか好きなひとは私
お互い好きどうしの私たち
さあ英語で言ってみよう
という授業でした

* あなたのいない部屋に
あなたの心配が置いてある
出て行ったあなたの肩に
私の心配が置いてあるのよ

* 夜が内緒ばなししている
内緒にしないでいいことを
誰かに聞いてほしくて

* 私は弱いと
強気という人
私は強いと
弱気でいえない人

* 「誰にでも朝はやってくるよ」って
なぐさめられても
「誰にでもやってくるものなんか
価値がない」と言い返す
あのひとがすき

マイルストーン 登り山泰至

ゴツツ、と音がする
夜も更けたころ
石など投げる子供がいるのか
かわるがわる模様がわりが激しい
継ぎ接ぎだらけの壁面から
ギョロリと眼がのぞく

夜をついばみ損ねた
鳥の変死体か
その音はあまりにも
痛々しいじゃないか

いったい誰が言い出したのか
ビジネス用語という言葉が嫌いだ
不安な気持ちに苛まれるとき

私は基盤の格子の中に
押し込まれた拡張子のようにだ
発酵した疑念が充滿する四角い中に
幸いにしてまだ石は落ちてこない
私はまたダイイングメッセージを
前後不覚に陥りながら

ボロボロになったツメの先できざむ
狭隘な空間からの
脱出または逸脱へのメルクマールを
端々に滲ませた嚙矢のイカズチに
なるように

熱い樹液のうちまだ温もりの
冷めぬように
私は詩をマイルストーンにおく

しあわせの絵 木村勝美

金時豆の炊いたの
筍の炊いたの
鮎の塩焼き
タコときゅうりの酢の物
ポテトサラダ
ジャガイモを炊いたのだけでも
食べるのが止まらないおいしさだ
もちろん

刺身や焼き肉も並ぶし
野菜のてんぷらは山盛りだ
朝は卵焼きに味噌汁に漬物
アレルギーのあるひ孫には
小麦粉抜きウインナーだってある
食べたいと言えば巻き寿司も並ぶ

猿が来て荒らしたという畑で
茄子やトマトと一緒にとった
土間に置かれた洗濯機より大きい
冷凍庫にも食材はたっぷりだ

盆休みが終わり
それぞれが帰るといふ頃には
姉妹ごとに段ボールを並べ
荷づくりが始まる

野菜が詰められる
梅酒やラッキョウの漬けたのや
柚子みそも 露やきくらげの佃煮も
真つ赤なカリカリ梅は
味見をしながらニンマリしてしまう
酸っぱさと甘さが同時に広がり
最高の味だ 色もいい

どれもこれも
85を過ぎた母の手料理だ

伊藤眞司

今回、有馬さんにお声をかけていただき、入会させていただきました。現在『三重詩人』『詩人会議』『命の籠』に作品を発表しております。



詩とのなれ初めは三十代半ば、それから二十年近くも経ち、時代も出版界も様変わりしました。心酔する作家が亡くなったり、挑戦しつづけていた文学賞が終わったという方も多いのではないのでしょうか。時代に応えるべく活動されているみなさんとお話できたことは幸いです。

岡田直樹

この度は『関西詩人協会』に加入させて頂き、とても嬉しく感謝しております。新しい友人といるお付き合い出来ることを、とても楽しみにしております。私は瀬戸内海のある因島に生まれ、大阪市で教職につき退職後十数年学童保育に携わりました。幼い子どもを眼の前に見ると、時に「え！」と思う不思議で、神秘的な行動を眼にすることがあります。そういう瞬間を表現出来たらと考えております。



かしはらさとる

この度は『関西詩人協会』に加入させて頂き、とても嬉しく感謝しております。新しい友人といるお付き合い出来ることを、とても楽しみにしております。私は瀬戸内海のある因島に生まれ、大阪市で教職につき退職後十数年学童保育に携わりました。幼い子どもを眼の前に見ると、時に「え！」と思う不思議で、神秘的な行動を眼にすることがあります。そういう瞬間を表現出来たらと考えております。



柏原充侍

昭和53年5月15日生まれ。近畿大学法学部卒。近畿大学大学院文学部文芸学研究科中退。



木立零

『お気に入り紹介』身の回りで気に入っているものは／足首を紐で止める黒のヨガパンツ／ブルーの横縞のソックス／薄めに草花の模様が入った七分袖のブラウス／一度買ったのを諦めて／やっぱりまた買い



行った／レンコンの柄のお茶碗／青いガラスのコップ／柿の木のお箸／少し小さめの赤い自転車／うさぎのガーゼハンカチ／スマイルの茶高炉／ハイジの絵葉書

運営委員会の模様

日時 二〇一五年8月8日14～17時

場所 エルおおさか 出席20名

①入退会 4名を入会承認し、退会者は3名で、1名の増加。永年会員は1名につき承認。

②名簿 総会の出欠確認の際に、名簿の記載事項の誤記や変更を確認するので、会員の方々には協力をお願いする。名簿に掲載する広告依頼を検討。

③会計 会費の納入のお願いに努めた結果、財政は改善されてきている。

④会報 「会員が発行または編集する詩誌」の欄のあり方を討議検討。主として発行人が会員である詩誌に掲載することとし、発行人が不明の詩誌は編集人が会員であれば掲載することとする。

⑤『言葉の花火』翻訳グループが精力的に翻訳作業を進めており、順調に進捗している。9月中旬には本人校正を送付する予定。

⑥ホームページ 改善の必要を討議。

⑦詩のイベント 準備状況等の討議。

⑧総会 時間配分、役割分担を討議。参加費は、会員は無料、非会員は五〇〇円とする。

⑨「詩のひろば」 会員18名から詩の投稿があり、第一回は無事発行できる。堤印刷で印刷する。

⑩協会の角2封筒が不足するので印刷する。

⑪その他

(文責・佐古祐二)

退会 太田武志 結崎めい 吉本弘 の各氏

HPより

会員の部屋に、北口汀子、小沼さよ子、正岡洋夫氏の詩を掲載しています。(8月1日より10月31日) テーマは「世界」です。見やすいHPとなるようにトップページを更新しました。次回から「会員の詩」に加えて「会員のエッセイ」も掲載することにし、第一回は永井ますみさんにご登場いただきます。「会員の活躍」のコーナーにイベント開催情報も随時受付けています。HP担当(松村・すみくら)に掲載内容の分かる資料を添えて早めにお知らせください。

会員の活動

有馬敬氏・6月9日、高槻講座『三好達治の世界・戦後』について講演会。7月25日、高石市民館事業「フオークソングライブ」で詩朗読と話。「詩人会議8月号」に詩「狂歌ふたつ」発表。

遠藤カズエ氏・8月3日、「城陽平和のつどい」鴻巣会館にて、自作詩『平和について』を朗読。

大倉元・北原千代・司茜・松原かおり各氏・6月13日大津市歴史博物館にて現代美術作家と現代詩人が語るワークショップに参加。

左子真由美氏・8月1日、京都音楽サークル協議会「作詞教室」にて講師。

佐相憲一氏・「FMうらやす」トークと詩朗読。「神奈川県新聞」に詩「天気予報」。詩人会議平和のつどい司会。日本・韓国・中国・国際詩誌「モンスーン」創刊参加。

白川淑氏・8月1日府民ホールアルテイでコンサート『京おんなの恋』開催。自作「さいごの舞子ちゃん」朗読。主催者奥田あつ子氏により「祇園守り」など4篇が歌われた。語りべ氏田(しだ)敦氏と対談。「なぜ京ことばで書くのか、祇園について、京おんなのこと」などをテーマに語りあった。

田村照祝氏・8月2日ウイングス京都で京都放送劇団による「雲の嶺」朗読。8月13日京都放送劇団にて自作脚本「いのちを削る」初読み合わせ参加。8月15日滋賀県平和祈念館にて社団法人日本朗読協会が「雲の嶺」朗読。

《会員が発行または編集する詩誌》

| | |
|----------------|------------|
| あ・う・ん 5号 | 根来眞知子 |
| 異郷 33号 | 村上久雄 |
| 苺通信 34号 | 藤本数博 |
| イリプス No.16 | 松村信人 |
| 銀河詩手帖 271・272号 | 近藤摩耶 |
| 秋桜 第17号(春) | 志田静枝 |
| コールサック 83号 | 佐相憲一 |
| CYPRES 12号 | 岸田裕史(個人誌) |
| 柵 Ⅲ次8号 | 志賀英夫 |
| 詩人学校 779～781号 | 竹内正企 |
| 新燎原 第15号 | 小林尹夫 |
| 軸 116号 | 熊井三郎 |
| 憧憬 8月 | 三浦千賀子(個人誌) |
| 叢生 199号 | 藤谷恵一郎 |
| 知井 19号 | 名古きよえ |
| 野の花 第57・58号 | 三浦千賀子 |
| PO 158号 | 左子真由美 |
| 三重詩人231集 | 加藤千香子 |
| 三重現代詩 97 | みえ現代詩人会 |
| リヴィエール 141 | 横田英子 |
| ラビーン 195号 | 薬師川虹一 |

ときめき屋正平氏・6月27日、原水爆禁止国民平和大行進の斑鳩コースにて、詩「被爆70年 なくそう核兵器! つなごう被爆者の願い!」を朗読した。

外村文象氏・『詩と思想詩人集2015』に詩「蟬しぐれ」

「平和をとわに心に刻む三〇五人詩集」に詩「戦争を知る一人として」を掲載。

永井ますみ氏・7月10日詩朗読きゃらばん北海道、7月26日、同沖縄県実施。

名古きよえ氏・7月「北桑時報275号」にエッセー「縁側からの眺め」を掲載。8月「FAS会報」風信72号「

に詩「先師を崇めて」が掲載された。

原圭治氏・日本現代詩歌文学館振興会評議員に再任。松本市芸術文化祭(7月29日)8月3日)で詩「一発も残しては」が、テレビ松本賞を受賞した。

村田辰夫氏・陸軍少年通信兵学校生徒当時の「日誌」3冊が復元出版され、各方面資料館へ。

吉田薫氏・8月21日、読売ティータイムに『毛虫の逃走 かわいい動き』サンケイ朝の詩8月22日に「尊敬」が掲載される。

吉田定一氏・童謡詩人「武鹿悦子詩人論」と詩「鳩」(雑誌「こども文学の実験 さわさわ」(四季の森社)、NA

CK46回展(茶臼山画廊)に油絵(小品4作品)出品。

詩の実作講座 4月25日、リルケ『若き詩人への手紙』を読む、講師・尾崎まこと氏、5月23日、大江健三郎『沖

縄ノート』講師・藤谷恵一郎氏、6月マザーグースの歌、講師・寺沢京子氏、7月18日、串田孫一、講師・佐古祐

二氏 詩を朗読する詩人の会「風」ゲストに5月岩井洋氏、6月中西衛氏、7月名古きよえ氏

《今後の予定》 詩のフェスタひょうご 2015年10月4日(日) 13時

くラッセホール。詩のフェスタ実行委員会

東日本ゼミナール in 秋田 平成27年10月12日 主催

日本現代詩人会・秋田県現代詩人協会

松原さおり氏・代表を務める「クラシックを楽しむ会」

は、10月28日(水) 18時30分より、秋篠音楽堂(近鉄西大寺駅前奈良ファミリア6階)に於いて「古武道コンサ

ート」(古川転生氏、妹尾武氏、藤原道山氏)を開催予定。 ショパン、リスト、ドビュッシー他

現代詩セミナー in 神戸 2015 「詩を書くことと生活すること」 11月8日(日) 神戸女子大学教育センター。

第26回富田碎花賞表彰式11月15日10時より。講演…香山雅代氏「能の「橋懸かり」「能面」など」

《会員の最新刊詩書》 阿形蓉子詩集『つれづれなるままに』(コールサック社)

秋野かよ子詩集『細胞のつばやき』(コールサック社)

後恵子『カトマンズのバス』(土曜美術社出版販売)

尾崎まこと 絵本『にゃんこの魂』(竹林館)

神田さよエッセイ集『東日本大震災 東北ればーと』

岸本嘉名男『うた道をゆく』(土曜美術社出版販売)

清崎進一詩集『にぎやかな食卓』(竹林館)

清沢桂太郎詩集『風に散る花』(竹林館)

曾我部昭美詩集『記憶のカバン』(砂子屋書房)

武西良和『遠い山の呼び声』(土曜美術社出版販売)

津坂治男詩／井上良子絵集『白い太陽』(銀の鈴社)

水野ひかる『水辺の寓話』(土曜美術社出版販売)

山本なおこ詩集『軋みをたてる時間』(竹林館)

《団体の会報・図書》 秋田県現代詩人協会会報 第52号

石川詩人会会報 40号

いわての詩 2015 岩手県詩人クラブ

大分県詩人連盟会報 第12号

大分詩人協会 会報 No.143

大阪の文学 No.35 玉置幸孝

岡山県詩人協会だより No.15

OCCS No.206 大阪文化団体連合会